2026 年 11 月 27 日

一般社団法人日本損害保険協会　東北支部

鹿妻小学校の児童たちと街を歩き、危険箇所を点検

～河北新報社「むすび塾」の一環で参加し、防災学習をサポート～

日本損害保険協会東北支部（委員長：菊田 政寛・損害保険ジャパン株式会社 執行役員東北エリア本部長）では、この度、河北新報社の第 131 回防災ワークショップ「むすび塾(※)」の一環で、宮城県石巻市立鹿妻小学校の防災学習をサポートしました。

10 月 28 日（水）に行われた防災学習は、4 年生の児童 46 名が参加し、保護者や地域住民のボランティアの方々が運営をサポートしました。児童たちは、9 グループに分かれて学区内の店舗や幼稚園などを訪ね、東日本大震災の経験を聞き取る活動を行いました。

また、災害時危険なもの（自動販売機、古いブロック塀、側溝、公衆電話など）や役立つもの（避難場所、避難案内表示、津波浸水表示など）を探し歩き、自分の目で確認し、タブレット端末で撮影しました。各グループは、街歩きで学んだことや危険箇所などをマップとしてまとめる予定です。

4 年生は総合学習の時間を活用し「私たちの街の安全を守りたい」をテーマに街歩き学習などを行ってきました。この日は 3 回目の街歩きでした。児童たちは声を掛け合いながら街を歩き、危険な箇所があると率先してメンバーに知らせていました。施設での聞き取りでは、緊張しながらも事前に準備した質問を投げかけ、先方の話に熱心に耳を傾けつつ、メモをとる姿が見られました。

この街歩きを通して、児童たちは、普段生活している地域の安全・安心についての認識を深めるきっかけになったものと思われます。

当支部では、今後も地域の関係機関と連携し、各種防災教育の普及啓発に取り組んでまいります。



街歩き前に注意点を確認



街歩きをする児童たち



施設の方に震災の経験を聞く児童たち

※本活動は河北新報 10 月 29 日付、11 月 18 日付(詳細版)に掲載されました。

(※)むすび塾

河北新報社が主催しているワークショップ。東日本大震災の教訓を今後の備えに生かすため、宮城県内外で地震、津波の際の避難の手法などを地域住民と一緒に考え、行動を後押しする取り組みを行っています。2012年からスタートし、今回で通算131回目。